

## I 実践

## 1 研究主題

児童一人一人が「楽しい」と感じられる学校の実現を目指し、差別と偏見をなくす全教科・領域での人権教育の推進。

## (1) 主題設定の理由

本校の教育目標は、「輝け！笑顔『強く、正しく、美しく』歩む仲町っ子ー見つけよう！自分の、友達の、いいところ」である。目指す児童像として、「元気でたくましい子ども 粘り強く考える子ども 礼儀正しく思いやりのある子ども」、目指す教師像として、「根気強く熱意をもって指導にあたる教師 わかる授業を展開できる教師 子どもの心に寄り添う教師」を掲げている。

本校は、各学年単学級で全6クラス、各学級の児童数は20名程度という小規模校であり、他学年でも児童同士が顔見知りであったり、6年間同じクラスで気心が知れていたりする中で成長していく。このことを、子ども一人一人の人間関係に寄り添ったきめ細かな指導を全教科・領域で推進することや、多くの児童が互いに理解し合う学校行事などの活動をすることで、差別や偏見のない人間関係を学ぶための強みをとらえた。

以上のことから、互いを大切にしようという気持ちを育むとともに、人権尊重の精神の涵養を進めることで、児童一人一人が「楽しい」と感じられる学校が実現されると考え、本主題を設定した。

## (2) 研究内容

- ア 豊かな体験活動の充実
- イ 人権についての啓発活動の充実
- ウ 人権教育に関する研修の充実

## 2 実践内容

## (1) 豊かな体験活動の充実

## ア 異学年との交流活動

木曜日のロング昼休みに行われる縦割り班活動（ハッピータイム）を中心に、学校行事などにも異学年交流を取り入れた。6月には、縦割り班で活動する「1年生を迎える会」を行った。

12月には、かみね動物園への遠足を縦割り班ごとの見学として実施した。高学年がリーダーシップをとり、班の児童が楽しく活動できる行事になった。

## イ 親子学習会

- ・各学年の発達段階に合わせて、親子で学習した。
  - 1・2学年 バスの乗り方教室（親子・友達とのふれあい）
  - 3学年 竹とんぼ作り（親子・地域のお年寄りとのふれあい）
  - 4・5・6学年 メディアリテラシー教育（親子で学ぶ）

## ウ ふれあいから人の気持ちを大切にすることを学ぶ活動

## 6月・ありがとうカードの作成開始

「自分の、友達のいいところ」を見つけようをテーマとして、全校児童がありがとうカードを記入した。カードは毎月記入し、「ありがとうの木」にはって掲示した。



【ありがとうの木コーナー】

## 7月・あいさつ運動開始

登校時に校門に並び、登校してくる児童に「おはようございます」と声をかける活動をした。あいさつを交わすことで元気を出すことができるとともに、リーダーとして認められる満足感をもたせることができた。

## 9月・3・9（サンキュー）運動

互いにあいさつを交わし合うことを習慣付けようと、計画運動委員会の児童がリーダーとなり運動を展開した。「1日の内に3人の大人と9人の子供に自分からあいさつをする」というめあてをよびかけ、運動期間中は明るいあいさつの声を聞くことができた。

### ・スポーツフェスティバル

家族の声援を受け、運動の演技を披露した。ルールを守って競い合ったり、チームの友達と励まし合ったりしながら力一杯種目に取り組んだ。また、4学年以上は係としてみんなのために自分の責任を果たそうと努力し合った。

### 1 1月・仲町学区文化祭見学

地域の人に取り組んだ作品を見学することで、地域の人を尊敬したり身近に感じたりすることができた。

### ・風流物体験

4年生の総合的な学習の時間では、地域の特色である伝統的な出し物（『日立風流物』）や受け継がれてきた太鼓の演奏について学んだり、体験したりすることで地域の方々と交流することができた。



【太鼓演奏体験】

### 1 2月・昔遊びを楽しむ会

1年生が地域の方々にお手玉や紙飛行機、けん玉、竹ぼっくり、おはじき、こま回しなどを教えてもらい、交流を深めた。昔の子供が難しい遊びをしていたことを体験し、尊敬の気持ちをもつことができた。

### 1月・全校なわとび記録会

各学年ごとのチームで、5分間の8の字跳びに取り組んだ。全学年がそろい、全校が一体感をもつことができた。異学年間で応援する学年を決め、交流し合いながら記録会を進めることができた。

### (2) 人権についての啓発活動の充実

#### ア 人権メッセージ募集の実施

道徳の時間などを活用し人権メッセージの作成を実施した。特に感染症への差別や偏見の問題について考えるように呼びかけた。これらは校内の人権コーナーに掲示して定期的に入れ替えをした。児童は、自分の作品や知っている友達の作品などを探して見ていた。

### 3 成果

(1) 縦割り班活動を多く取り入れ、異学年と交流することで、自然と高学年の児童が、低学年児童の面倒を見たり、手をさしのべたりできるようになった。また、休み時間には、学年を超えて、仲良く遊ぶ姿が、多く見られた。

(2) 地域との交流を深める中で、お年寄りや身近な人への尊敬や感謝の気持ちが育ち、思いやりの心もてるようになった。そして、このことから相手を大切にしようと思う心が育ってきている。

(3) 人権メッセージの募集により、子どもたちの中に人権に対する意識づけができた。また、文章を書くことで自分自身を見つめ、自分の気持ちや他の人の気持ちについて考えることができた。

## II 今後の課題

小規模校であるため、慣れが生じ、友達のことを呼び捨てて呼んだり、言葉遣いが乱暴になったり、教師など目上の人に対して敬語で話すことができなかつたりといった傾向がある。

そこで、教師自身の児童を「さん」付けでの呼名や児童へのていねいな言葉遣いの実践をさらに徹底したりと、普段から人権を意識し、児童一人一人を大切にする指導を心がけていく必要がある。また、全職員で人権教育に関して共通の認識をもち、さらに人権意識が高められるように、研修内容や時期を工夫し、取り組みを進めていきたい。

また、地域や保護者との連携を密にし、保護者や地域全体の人権意識も一緒に高めていくことができるよう、啓発活動にも力を入れていきたい。

## III 人権コーナーの設置の様子

